

## § 5 言語の規則をめぐる問題：補足

### 1 規則をめぐる3つの困難：再説

①規約主義のパラドクスは、「ある与えられた前提からある結論が生じるのは何故か」という問いに答える困難、つまりある推論の妥当性を説明する困難である。

②規則遵守のパラドクスは、「ある規則の解釈が複数あるときにどれが正しいのか」という問いに答える困難である、これは「同じ前提から（互いに両立しない）異なる結論の導出がおこなわれているときに、どの結論を正しいものとするのか」、あるいは「ある結論の導出が正しいことをどう正当化するか」という問題である。言い換えると、言語の使用規則を明示化できないという問題である。

③私的言語批判は、使用の規則を明示化できても、それに従っているかどうかを、一人では判定できないという問題である。

### 2 ミュンヒハウゼンのトリレンマと規則に関する問題

・次に見るように、規則に関する3つの問題は、ミュンヒハウゼンのトリレンマによる、究極的な根拠付の不可能性の議論と似ている。これらは、言語の使用に関して、究極的な根拠付ができないという議論である。

・規約主義のパラドクスは、「なぜ」という問いが無限の反復してしまうというケース（無限遡行のケース）である。

・私的言語批判の場合には、「なぜ私的言語の規則に従っているといえるのか？」という問いに、もはや根拠を挙げられないというケース（独断主義のケース）である。

・規則遵守のパラドクスの場合には、 $1000 + 2$ は、 $1002$ であり、 $1004$ ではないことを説明しようとしても、循環にしかならないというケース（循環論証のケース）である。。

### 3 私的言語批判の分析

問い「私的言語の問題を解決するには、何人いればよいのだろうか？」

この問題は、二人になっても生じる。なぜなら、二人が、規則に従っていることと、規則に従っていると信じていることの区別ができないからである。ただし、二人ならば、相互にチェックでき、その結果、食い違いが生じる可能性がある。食い違いが生じたとき、どちらの理解が正しいかを判定する基準はないように思われる。そのとき生じているのは、規則遵守の問題である。以上のことは、二人以上のn人の時にもなりたつだろう。

二人以上の時は、次の二つのケースに分かれることになる。

(1)規則に従っていることについて意見が一致するとき。

この場合には、規則に従っていることと、規則に従っていると信じていることの区別ができない。この点で、私的言語と同じである。

(2)意見が一致しないとき。

この場合には、規則遵守の問題が生じる。

### (1)のケースの考察

反論：(1)の場合は、私的言語と同じではない。現実に意見が一致しているとしても、意見が一致しない可能性があるのだから、その点で私的言語の場合とは異なる、という反論があるかもしれない。批判可能であるが、批判がないことによって、暫定的に正当化されている。

反論の拡張：このような意味の批判可能性ならば、(ある特殊な場合の)私的言語の場合にもありうる。たとえば、ある形のイチゴに「完全イチゴ」という名前を付けて、それを見つけるたびに、特別な箱に入れていくとしよう。それを後から見て、「これは完全イチゴではなかった」とおもうイチゴを見つける可能性がある。つまり、私的言語であっても、この場合には、批判の可能性はある。

この私的言語は、ウィトゲンシュタインが想像した感覚「E」の場合とはことなる。感覚「E」の場合には、規則に従っているかどうかを判定するには、記憶に頼るしかなかった、しかし、記憶の正しさを判定するときに、記憶にしか頼れないとすれば、記憶の正しさを判定する方法は無いということである。

これらの問題は、推論の妥当性を説明する困難である。推論の妥当性を保証することは、意味論では不可能である。なぜなら、意味によって、推論の妥当性を保証することはできないからである。なぜなら、(もし推論主義意味論が正しいとすれば)意味の学習は、推論の学習によって行われるからである。

## 4 規則遵守問題の一般化

規則遵守問題は、例えば「 $1000 + 2$ はいくらですか?」という問いに答える時の困難である。しかし、「 $1000 + 2$ はいくらですか?」と問うとき、その問いを理解しているはずであり、「+」についてもある理解を採用しているはずである。したがって、「+」のその理解に基づいて、答えることになる。ウィトゲンシュタインの例での教師と生徒は、「 $1000 + 2$ はいくらですか?」を別の意味で理解し、それに基づいて別の答えを引き出している。

したがって、規則遵守問題は、答えの不一致の問題ではなくて、問いの理解の不一致の問題である。ところで、問いを共有しなければ、私たちは他者と議論できない。

ゆえに、規則遵守の問題は、「どうしたら他者と問いを共有できるか」という問題の一種である。

=====

### ミニレポート課題

- 1、自分の専門分野での経験法則と理論法則の例を挙げてください。
- 2、自分の専門分野で二つのパラダイム(ないし学派)の例を挙げ、それらの共約不可能性を説明してください。
- 3、他者と問題を共有できていないケースの例を挙げてください。
- 4、今日の講義内容に関連して、できるだけ根源的な哲学的な問いを立ててください。

=====

